

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在会員数
167名
3月地区別
296名
3月地区別
57名
61年3月地区別
(520名)

61年3月号(164号)
発行 者 萃
根 岸 岳 集
編 村 愛 岳
中

八段の審査を終えて

銀詠 清田 嬌風

受審日や 水張る道緊張す

七時四十八分逗子発の車中で、友人達と書取りが自信がなくてと、書取りの下書きを展げて話してしまいました。偶然乗合せた審査の先生が、どれどれとそはへ来てみて下さり、最後の「能く備えよ」の点が二カ所落ちてると言われました。それに対し私達四人は、自分達の持っている教本には点がついていませんと申ししたところ、そんなことないよ、と一巻の教本を持ってきて見せて下さいました。その教本には点がありました。私は改訂表は再確認したつもりでしたがお礼を申しあげたら、ついでに頼山陽の頼も、頼と頼とあるが頼の方で書いた方がいよと御教示下さいました。(○)の件は帰宅後改訂表をみましたが、年代の改訂だけで(○)の件は載っていませんでした。審査が始まり、終わった人達が席へ戻ってきて、胸がドキドキで、普段はすらすらと出るのに詩文が思い出せず全然駄目だったと嘆く人、折角全部覚えてきたのに、半分でハイそこ迄……と最後までやらせて貰えず残念がる人、それぞれに話し合っている

ちに審査が終了しました。

そして次に先生方の講評となりました。先週の七段と違って仲々良いと思ったが待てよ、今日は八段なのだから当り前、八段として審査したとの言葉がありました。又八段の次は皆伝となり、もし鬼籍に入った時は、地藏寺山の吟魂碑に名前が残るとの話があり、もう一度基本からしっかり勉強して、漢詩・和歌・新体詩・俳句の違いを身につけるよう、次の皆伝の為に全力投球で息を抜いてはいけないと言われました。

岳風先生の日頃のお言葉に「一吟七百回」と言われていたそうです。私も十一月の講習会の時から、朝夕必ず二回以上は吟じておりましたので、七百回の半分位は吟じたのではと教えてみました。明日から又皆伝を目指して全力投球で頑張ってくださいと思います。

審査の先生方始め、お手伝い下さいました諸先生方、早朝よりほんとうにありがとうございます。今後も御指導の程お願い申し上げます。

師範認許 (二月十一日付)

伊藤峰風さんが右認許されました。おめでとございます。

味ある吟を目標に

堀内支部D 矢島 俊風

ある工務店の親睦旅行の折、温泉風呂に
ひたりながら、二人の方が吟じた詩吟：そ
れはたしか「金州城」と「川中島」だった
と思います。其の時にです、詩吟っていい
なあと思っただのは。そしてお二方のすす
めもあって中村教場に入門、あれからもう
十二年が経ちました。

此の度八段の審査を受けましたが、今にし
して詩吟の奥深さ、むづかしさを感じるの
です。まして和歌・俳句など尚更そう思い
ます。審査の先生方の講評の中に、皆さん
は免許皆伝の手前の八段で今一番大事な時
である。下手は下手なりに八段らしい味の
ある吟じ方をするよう注意された。これか
らは高段者らしい味のある吟を吟じるよう
心掛けたいと思います。
生ある限り吟道に精進したいと思いま
すので、今後共よろしくお願いいたします。

俳句

愛岳

お持たせの 新茶をいれるさくら餅
三月の 余寒さくら草霞え

◎カセットテープ申込について

(一) 木村岳風先生名吟選

木村岳風先生のレコード吟詠の集大成で
あるカセットテープが完成、収録の詩歌は
37題で、昭和九年吹込みの「大楠公||徳川
齊昭作」から年代の古い順に吹込み、総時
間は80分で一本のカセットテープに収録。
三月一日発売の予定。

価格 三千円 (梱包・送料実費は現品
到着後送金)

(二) 和漢名詩篇 1・2

学院発行の教本「第一和漢名詩の吟じ方」
に準じてカセットテープが完成、特色とし
ては、各吟題を女性の吟者、男性の吟者で
二とりに吹込み、参考用としてある。

和漢名詩篇(1) (P 19 / 51) 千八百円
和漢名詩篇(2) (P 52 / 76) 千八百円
(梱包・送料実費は現品
到着後送金)

申込方法 碩心会として一括注文します
ので各支部毎希望とりまとめ

申込先 教務部長 竹石憲岳方
切日 3月31日
申込先

◎61年度夏期講座の申込について

8月2(土)3(日) 九段会館に於て、右講座
が行われます。参加希望者は抽選のため、
なるべく早く申込みのこと。

申込先 教務部長 竹石憲岳方

◎選抜予選会に出場

4月6日(日)平塚農業会館に於て行われる
右会に左記の方々が出場されます。

木村松風 (松和) 鈴木壽風 (堀内D)
立沢御風 (逗子B) 鈴木心風 (吟甫)
松井正風 (逗子A) 木野本明風 (吟甫)
土屋純山 (真澄) 大橋昭山 (吟甫)

◎教本通りの詠に

本能寺………殿を揚げて東に指せば
獄中感有り………縦光をめぐらさざるも

自然と人生 (三月)

(彼岸)

今日彼岸に入る。梅花歴乱として麦緑已
に莖をなしぬ。菜花盛となり椿はほたりほ
たり落ち落ちて地に紅なり。野に出づれば、
田の畔は土筆、芹、芥、嫁菜、野蒜、蓬な
んど簇々として足を容る可き所もなし(後
略) 三月十八日

荒城の月

吟甫支部 大山 政泉

春高樓の花の宴めぐる盃影さして

千代の松ケ枝わけいでし昔の光今いずこ
「荒城の月」の作詩者で知られている土井
晩翠は、本名林吉、「土井」は「つちい」と
いっていたが、昭和九年に土井と改めた。
「荒城の月」は明治三十一年頃（晩翠27才
頃）作られた。晩翠はこの作品に東京音楽
学校の求めに応じて作れるものと記してい
る。そして三十四年三月に滝廉太郎の曲を
つけて中学唱歌として世に発表された。こ
の「荒城の月」は晩翠が二高（現在の東北
大）生の時、飯森山と鶴ヶ城を訪れた時の
イメージが元になったといわれている。
然しこの詩をじっくり味わっていると、
杜甫や李白の詩とよく似かよっている部分
があると感ずる人も多い。その箇所をあげ
てみると、杜甫の詩からは「花近高樓傷客
心」であり、李白からは「把酒問月」であ
る。このふたつを比べてみると、晩翠の詩
には、昔からの詩の世界がそのままとり入
れられており、人生と自然の対照から、人
生の儚さを歌おうとしていることがよく
分る。

鑑賞すればするほど、この詩は秀作とい
うよりも、むしろ平凡な詩という印象を受
ける。これが国民の歌として人々の心の奥
に深い感銘を与えたのは、詩のもっている
力と同時に、天才的な作曲家滝廉太郎の曲
が大きな力を与えたといえるだろう。

晩翠は明治四年十月、仙台市に生まれた。
少年の頃から父林七から「八犬伝」や「太
閤記」さらに「水滸伝」などをお伽話のよ
うに聞かされていた。そのために詩風は固
く、ある意味では宗教的な色合いさえ含ん
で、人間の運命を歌っているといえる。

晩翠はよく島崎藤村と比べられることが
ある。明治三十年代の詩の世界に生きた二
人は全く対象的な特徴をもっていた。みづ
からの文学の中に我が国の伝統文学を巧み
に導入した藤村に対し、漢語を主体とした
己の中に、外国の文学を導いた晩翠の詩は
その意味とともに、読み方さえわからない
ような難解な詩だという印象を与えている。
相対的な二人の詩が「明治文化人の心」か
も知れない。

晩翠は昭和二十七年十月十九日、81才の
生涯を閉じた。その二カ月前の八月十二日
「荒城の月」の詩碑が青葉城展望台に建て
られた。ステッキにすがって出席した晩翠
は、その除幕式の最後の挨拶で、

身にあまる ほまれを受けて唯なみだ
感謝をささぐ一切の思
と、ひとことつぶやいただけだった。

練吟メモ

○教本一・二巻を通じて一番いい例である
し、わざわざ教本を取り出さなくても、皆
さんよくご存知の「春暁」の結句を例題に
とりあげ、今月の、勉強を進めてみたいと
思います。

○花落知多少

この句は、むかしから「花落つること、
知んぬ多少ぞ」と読んで来ました。「知ん
ぬ」が、始めはピンと来ないけれど、吟じ
込んでいくうちに、なんとなく分かるよう
になる。「知んぬ」は「知りぬ」が変化し
たものですから「知りました」ということ
です。句を直約すれば（花が多少散ったこ
とを知りました）ということになります。
○ところで、右の原句は、現在市販されて
いる本で見ると、次のような読み方があり
著者によってまちまちのようです。

花落つること 知る多少
花落つること 知る多少ぞ
花落つること 知んぬ多少ぞ
花落つること 知んぬ多少ぞ
花落つること 知らず多少ぞ

花落つること 多少なるを知らんや
右のどの読み方をしてもよろしいのです。
意味は、どう読んでも同じです。

○「知多少」の説明ですが、その前に「多
少」には(多い)と(少い)と(どれほど)
の三つの使い分けがあります。日本では、
「多少はある」と言えば(少しはある)と
いうことですが、中国では(多くさんある)
ことを言います。そのほかに(どれほど、
いくらか)といった意味で使うことがある
のは、双方とも同じです。

○さて、「知多少」ですが、中国では「知」
の下に「多少」という不定の意をもった疑
問詞がついた時は、反対の「不知」の作用
をすることになっています。(多いか少
い)か知りません、きつと多いことでは
と、反語のはたらきをするわけです。こ
のような句法はよく出て来ます。「知是誰」
(知る是れ誰ぞ)も(誰なるかを知らんや、
誰かわからぬ)の意となり、結局は「不知」
の意味になりますね。

○今月のテーマは、漢詩の訓読は本により
違いがある。一体訓読は簡潔がいゝのか、
少々は長くても、分りやすいのがいゝのか
と言うことについて、お話しするつもりで
したが、たちまち紙数がなくなりました。

ぎんなん

母音は「ポイン」、子音は「シン」と
読みましよう。文法上の用語であって、漢
和辞典や辞林はそうなっています。時代の
流れで「ぼおん」「しおん」と読むむきも
あるため、広辞苑などは「ぼおん」を付記
しています。しかし、現代標準語としては
「ポイン」「シン」が一般的であるとし
ています。とくに、権威ある日本放送協会
編の「現代日本語の発音アクセント辞典」
は「ポイン」です。指導者が使う言葉は、
そのまゝ、教場で伝達されてしまいます。言
葉を大事に吟詠する私達は、十分注意しま
しょう。

横警支部解消

右支部は勤務の都合その他の理由により
二月末日で解消いたします。

(移籍)

左記九名横警支部より堀内支部D組へ。

- 454 新井衛山 457 菊川甫泉 459 小坂橋英泉
- 460 小島洋泉 465 野元正山 467 藤田弘泉
- 468 松本隆泉 481 及川弘泉 528 堀江景山

(入会)

- 730 加藤 力 横浜市磯子区洋光台五―五―五 503
- (大船B) (電)〇四五―八三三―二二二七

- 731 加藤由七 横浜市磯子区洋光台五―五―五 503
- (大船B) (電)〇四五―八三三―二二二七

- 732 松尾喜喜子 逗子市沼間一―二―二二六
- (沼間) (電)〇四六八―七―一六九八四

- 733 森本ゆき 葉山町一色一三九二―四四
- (堀内・D) (電)〇四六八―七―五―二三八四

- 734 加藤ひさ 葉山町堀内六四
- (諏訪) (電)〇四六八―七―五―〇九五四

- 735 鈴木照子 逗子市桜山九―二―一八
- (諏訪) (電)〇四六八―七―一―五二一九

- 736 石黒恵美子 葉山町堀内一八六六
- (堀内・D) (電)〇四六八―七―五―二五三九

(退会)

- 139 森谷松風(下山口) 225 塚越正風(堀内C)
- 350 伊藤照泉(逗子A) 382 角田峯山(上原)
- 385 千葉登泉(逗子A) 401 和田句山(逗子A)
- 517 松永靖泉(大船B) 667 片岡房子(逗子B)
- 669 鈴木保雄(横警) 688 望月俊昭(堀内D)
- 690 多々良真智子(堀内D) 705 上間和子(逗子A)
- 715 前田武司(横警)

日溜りに春を感じ、北風に身をつぼめて
いた固い蕾が花ひらくのも間近か、春の序
曲を奏でようとしています。私達の心もお
もむろにひらきはじめようとしています。
趣味を通じて楽しい輪をひろげてゆこうで
はありませんか。